

公	表
---	---

第 29 回技能グランプリ「かわらぶき」職種 競技課題

I. 【作業時間】

第一日目	集合時間	8 : 30
	作業説明	8 : 30
	競技開始	8 : 45
	休 憩	10 : 15
	作業再開	10 : 30
	昼食休憩	12 : 00
	作業再開	13 : 00
	休 憩	14 : 45
	作業再開	15 : 00
	作業終了	16 : 45
第二日目	集合時間	8 : 30
	作業開始	8 : 45
	休 憩	10 : 15
	作業再開	10 : 30
	作業終了	12 : 30
<hr/>		
作業時間	合 計	10 時間

★前日に施工架台の抽選を行い、2 時間を限度として、瓦の点検・瓦座打ち・瓦棧打ち及び地割り、架台に補強棟金物の取り付け、緊結線の取り付けを認める。

当日は選手以外会場に入らないこと。

下記の仕様に従い課題図を参考にして屋根架台に瓦を葺きなさい。

II. 【仕様】

1. 使用瓦は三州いぶし瓦 53A 判防災切落棧瓦を使用する。
2. 全ての瓦の納まりは現場作業を想定した施工とし、雨仕舞に配慮すること。
3. 瓦の葺き方は、引掛棧空葺き工法（馴染み土の使用は可）とする。ルーフトープを垂木通りに使用し、瓦座、瓦棧木をその上に留め付ける。
4. 軒瓦は、施工図を参照のうね一文字軒瓦と万十軒瓦を使用し、軒瓦の尻部分は銅線緊結もしくはビス留めとする。
5. 一文字・万十切隅瓦は、左右ともに 2 箇所を野地よりトンボにて緊結し、互いに結び合わせる。ただし、衝立側の右万十軒瓦の留め付けはビス留めとする。
6. 軒瓦の出寸法は一文字・万十ともに、瓦座外面から 60～90 mm（流れ寸法）とし通りよく納める。なお、計測の位置は瓦座から軒瓦の水垂れ外面までの寸法とする。
7. 棧瓦は全数ビス留めとし、隅の左右勝手瓦に穴をあけ、野地よりトンボにて緊結、又は下地にビスにて留め付ける。定着用に葺土を使用してもよい。
8. 駒巴瓦は、2 箇所を野地よりトンボにて緊結する。
9. 隅の左右勝手瓦の隙間は、30 mm 以内とする。
10. 壁際の勝手瓦および半端瓦のすき間は 15mm 以内とする。
11. 鬼瓦の緊結は、#19 の銅線を使用し 3 本を縫状にして野地に緊結する。
熨斗留め納の隅先の熨斗瓦は 2 段共銅線を用い、野地に緊結する。
12. 隅鬼瓦の据付け位置は自由とし、割熨斗瓦 2 段積み、素丸瓦の仕様とする。
13. 隅棟の施工法はガイドラインに準じ、強力棟金具をステンレスビスで隅棟各 2 ヶ所を木部より取り付ける。熨斗積み 1 段目と 2 段目の間に D10mm の横鉄筋を通し、取り付けた棟金具 1 ヶ所に対し #19 銅線 2 本を絡め横筋を留め付ける。（棟断面施工図例参照）
14. 隅棟の頂点部分は、施工図に従い切合わせによる納めとし、素丸・熨斗瓦を左右同寸法として隙間なく納める。
15. 流れ土居熨斗瓦・半素丸瓦・半巴瓦の納まりは施工図を参照し、全数銅線にて 45mm ビスで壁面に留め付ける。
16. 1 段目の熨斗瓦は向かい合わせた熨斗瓦を互いに緊結し横筋に絡め留め付け、2 段目の熨斗瓦は向かい合わせた熨斗瓦を互いに緊結する。素丸瓦は横筋に取り付けた銅線にて緊結する。
17. 割熨斗瓦のちりは、勾配で 10 mm とする。
18. 棟割熨斗瓦の勾配は 3 寸以上とすること。
19. 棟の台土は、台熨斗瓦より 30 mm 以上内に納めること。
20. 軒・切隅等外周部の瓦はビスにより、補強止め付けをする。
22. 葺き土は南蛮漆喰とし、28 kg 入り 7 袋とする。
23. 瓦を破損した場合は申し出により支給するが、減点の対象とする。

24. 副資材の追加支給はしない。但し南蛮漆喰の追加は認める。
25. 作業時間を超過した場合は、失格とする。

Ⅲ. 【注意事項】

1. 合端は支給の合端台を使用し、各自の競技架台の前ですること。
2. 他人の工具の貸借は禁止する。
3. 副資材として、接着剤・粘着テープを用いることは不可とする。

Ⅳ. 【器具工具】

- ★ 使用する器具・工具は技能検定使用に準ずる。但し、木工用ノミと電動工具は充電式インパクトドライバーを使用可とし、充電は所定のコンセントを用いる。治具は認めるが横50cm縦30cm高さ20cmの箱の中に入る物とする。（組立て又は連結して箱の中に入らない物は認めない。）競技委員が認めない治具は使用不可。尚、使用に際し判断に迷う治具については当日競技委員に判断を仰ぐこと。

Ⅴ. 【安全作業】

- ★ 服装は高所作業を考え、シャツ・ズボンの袖を留め、地下足袋等を履き、安全帯・ヘルメットを着用のこと。（ヘルメットは会場にて支給）
- ★ 他人を負傷させたり、本人が怪我をした場合、その状況により失格とすることもあある。

Ⅵ. 【作業態度】

- ★ 選手は各都府県の代表を自覚し、競技を行うこと。
- ★ 応援団の目に余る指導やアドバイスがある場合には競技委員協議の上、平等を期するため選手の作業態度の評価で減点及び失格の対象とすることがある。

Ⅶ. 【作業終了】

- ★ 作業は、清掃、整理整頓を終え、ヘルメット、安全帯、腰袋を外してから、合図を行う。